

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 6 報
千葉県農林水産部
令和2年7月28日

いずれの品種も登熟日数が長くなる見込み 「ふさおとめ」の成熟期は8月13日頃からと予測 収穫に向けた管理を行いましょう

〔生育概況〕

7月中旬以降、気温が低く、日照が少なかったため、「ふさおとめ」、「ふさこがね」では登熟の遅れ、「コシヒカリ」、「粒すけ」では出穂の遅れが生じています。成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月13日頃から、「ふさこがね」は8月20日頃から、「コシヒカリ」は8月26日頃からと予測されます。また、「コシヒカリ」は出穂にバラつきが見られるため、成熟期の判定には注意が必要です。なお、地域によっては、いもち病や斑点米カメムシ類の発生がみられるため、必要に応じて防除を行いましょう。

表1 品種・植付時期別の成熟期の予測

品種	植付時期	成熟期予測			
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	8月17日	8月14日	8月14日	8月13日
ふさこがね	4月20日	8月24日	8月20日	8月20日	8月20日
コシヒカリ	4月20日	9月1日	8月26日	8月26日	8月26日
	5月1日	9月6日	8月31日	8月31日	8月31日
	5月10日	9月6日頃から			
粒すけ	4月20日	9月1日	8月26日	8月26日	8月26日
アキヒカリ (飼料用米)	5月15日	9月3日頃から			
夢あおば (飼料用米)	5月15日	9月18日頃から			

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果を基に、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数、気象条件等を加味して予測。飼料用米は栽培事例からの予測。

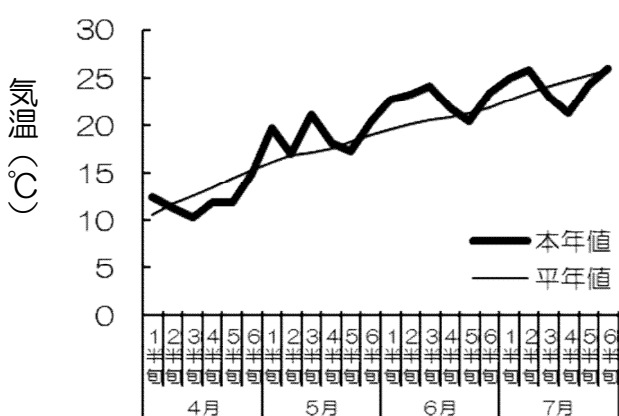


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

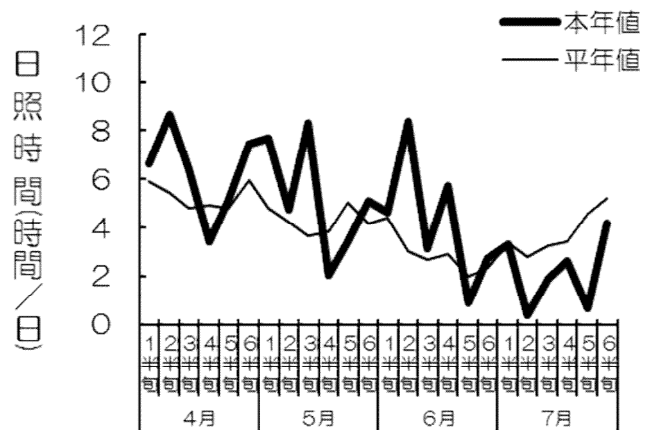


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■ いもち病・紋枯病の防除

病害虫発生予報第 4 号（農林総合研究センター7 月 15 日発表）によると、いもち病（穂いもち）の発生が「多」、紋枯病が「やや多」とされています。止葉などの上位葉や、穂にいもち病斑が多数見られる場合は、早めに治療効果のある薬剤で防除しましょう。

表2 いもち病、紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	病害名	いもち病	紋枯病	使用時期	使用回数
ダブルカットフロアブル		○予防・治療		穂揃期まで	2 回以内
ノンプラス 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療		収穫 7 日前まで	2 回以内
ブラシン 粉剤 DL/フロアブル		○予防・治療		収穫 7 日前まで	2 回以内
カスミン 液剤		○治療		穂揃期まで	2 回以内
バリダシン 粉剤 DL/液剤 5			○	収穫 14 日前まで	5 回以内
モンカットフロアブル			○	収穫 14 日前まで	3 回以内

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

■ 斑点米カメムシ類の防除

病害虫発生予報第 4 号によると、カスミカメムシ類、大型のカメムシ類ともに発生が「多」とされています。防除適期は、成虫飛来期の穂揃期と幼虫発生初期の出穂期 15 日後頃です。共同防除を実施した地域においても、散布後に侵入した成虫やふ化した幼虫による被害が発生する場合がありますので、カメムシ類の発生状況によっては、追加防除を行いましょう。なお、地域全体で斑点米カメムシ類の密度を下げるため、飼料用米でも適切に防除を実施しましょう。（防除薬剤は、「水稻の生育状況と当面の対策」第 5 報参照）

■ 農薬の収穫前使用日数・飛散に注意

農薬を散布する際には、農薬に定められた収穫前使用日数に注意しましょう。

また、周辺へ飛散しないよう、以下の点に注意して農薬散布を行いましょう。特に、隣接ほ場の収穫時期が早くなることが見込まれる場合は注意が必要です。

- 風向きに注意して、風の弱いときに散布する
- 散布の方向に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する

■ 収穫に向けた水管理

登熟期の水不足は、乳白粒等の白未熟粒の発生による品質低下の原因となります。出穂期 3 週間前から出穂期 2 週間後までは湛水管理とし、その後、出穂期 25 日後までは間断かんがいを行い、落水は出穂期 25 日後以降としましょう。排水不良田では、通常より早めの出穂期 20 日後頃を目途に落水を開始します。今年は、長雨で田面が柔らかいので、確実な落水で、コンバイン収穫に備えましょう。

なお、農業用水は地区内で計画的に利用し、さらに、かけ流しや漏水を防止し、大切に使いましょう。

■ 適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

早刈りは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。今年は長梅雨の影響で、登熟までの期間が長くなると見込まれ、「コシヒカリ」では出穂がバラつくほ場も見られるため、成熟期の判断が重要です。

出穂期から収穫期までの日数の目安は「ふさおとめ」で33日前後、「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」、「粒すけ」で38日前後ですが、正確な収穫期は帯緑色歩合で判断しましょう。生育中庸な株の帯緑色歩合が15%（ただし、不稔粒を除く）の 때가収穫適期となります（図3参照）。

また、収穫した籾を3時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下しますので、収穫後は速やかに乾燥しましょう。

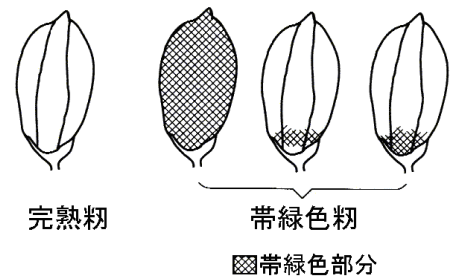


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%とします。

また、乾燥終了直後の籾の温度が高い状態で籾すりを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げてから行いましょう。

■ 選別は 1.8mm 以上の網目を

外観品質を高めるため、選別は1.8mm以上の網目を使用しましょう。粒が小さい米の混入は粗タンパク質含有率を高め、食味を下げる要因にもなるので、選別の網目は1.8mm以上にしましょう。また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、籾すり機等を丁寧に清掃しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。出荷する際には、集荷団体から「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出を求められる場合があります。

「生産履歴」を記帳することは、自己の経営の点検などにも重要な役割を果たすので、正確な記帳に努めましょう。

■ 飼料用米の収穫・乾燥・調製

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の収穫適期は、「アキヒカリ」が出穂期から35～40日後、「夢あおば」が出穂期から45日後頃であり、帯緑色歩合は15～20%を目安とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は

収穫を遅らせて立毛の状態乾燥（立毛乾燥）を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

飼料用米は主食用米と農産物検査規格が異なります。異物の混入などがなければ、ふるい分けの必要もありません。また、食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

■ 飼料用米の適正出荷及び保管中の措置等について

○用途外使用の禁止

① 一括管理方式

基本的に契約数量を飼料用米として出荷します。

② 区分管理方式

飼料用米として特定したほ場から収穫されたすべての米（ふるい下米を含む）を、原則飼料用米として出荷します（図4）。

※出荷数量は 30 kg 単位ではありません。

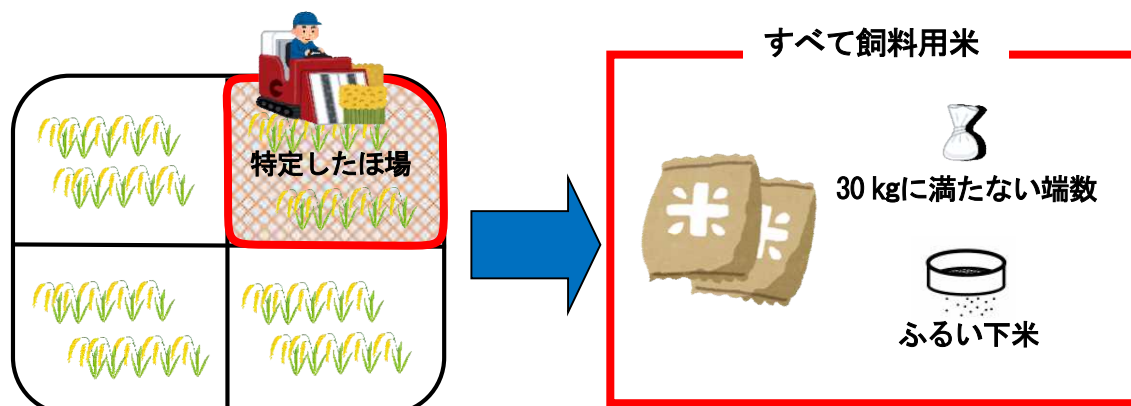


図4 区分管理のイメージ

○保管中の措置

用途ごとにパレットを分けるなど、他の米穀と区分して保管し、「票せん」による掲示をします（図5）。

※一括管理方式の場合は、飼料用米として特定された時点から他の米穀と区別して保管します。



図5 用途を示した票せんを掲示
（食糧法遵守事項省令第3条）

○販売時の措置

包装等に、用途を示す飼の表示をします（図6）。
（見やすい箇所への印刷、押印、シールの貼付、その他の方法により鮮明に表示します。）

※JA等に販売委託している場合は、JA等が表示を行う場合があります。

※大きさ：外円直径 30～40mm、肉幅 2～5mm
肉色：青色または緑色



図6 包装に用途を表示
（食糧法遵守事項省令第4条）